

170624 課題整理総括表研修 Q&A一覧

No.	重要	分類	Q	A
4		活用方法	作る順番はどのような順番でも良いか	どのような順番でも良い。
5		活用方法	課題整理総括表をいつ作成したら良いのか	基本はケアプラン原案を作る段階で作る。ただし、OJTや振り返りなどの場合はこの限りではない。
6		活用方法	既にプランがある事例について書いた場合に、プランの「ニーズ」と整合が取れなくなることはないか	それは分析とプランが一致していないということ。次のタイミング等でプランの見直しが必要。
7		可能性	必要な援助を目いっぱい使っていないが「悪化」というのはありうるのか	ターミナル期や重度の認知症、ALS等の進行性難病の場合はありうると思われるので、欄を設けている。
8		可能性	改善・維持・悪化と「見通し」の違いが分からない	改善・維持・悪化はあくまでも各生活行為に着目した欄であり、見通しは阻害要因に着目したもの。
9		可能性	現在ケアを利用している場合、それを継続する前提であれば「維持」ということで良いか	その通り。ただし、そのケアが妥当であることが要因に基づいて整理されていることを確認する必要がある（要因に基づいて位置付けられないのであれば、そのケアは本当に必要かどうか判断しにくくなるので）。
10		可能性	「改善」の意味が良く分からない。今利用しているケアを利用し続けるのであれば「維持」で良いのではないか。	現在は良いとしても、利用者家族の意向を踏まえてさらに良いアプローチやケアがあり、それを活用すれば改善の可能性があるのであれば、それを検討することも専門職としての責務だと考えられる。
11		考え方	同居家族や施設のサービスを利用している場合はどう表現すれば良いか	本人は「していない」ということで「全介助」を選択した上で、要因欄に「同居家族が実施」とか「施設のサービスを利用」と書けばよい。
12		考え方	ストレングスマデルでやってきたので、この流れでニーズを書く違和感がある。どう考えれば良いか	ストレングスの活用は有効だが、前提として阻害要因をしっかりと捉えていることが必要。まずはこの流れで書いて頂いた上で、「ニーズ【案】」の欄を2段階にかき分けると良い。つまり、「解決すべき課題」をまず書いた上で、ストレングスや意向を踏まえて「ニーズの案」を書くということだ。
13		考え方	状況と要因と援助内容の違いが分からない	状況は生活行為に介助を必要とするかどうかの視点、要因は介助が必要となっている原因、援助内容は介助の内容である。
14		基本情報	この様式だけでは疾患の情報など基本情報が含まれない	基本情報を添付して活用いただきたい。
15		現在	どうか自立だけでもリスクが大きい場合はどうするか	「見守り」を「自立やや難」あるいは「自立リスク大」くらいに捉えて頂き、活用いただきたい。
16		現在	道具を使って「自立」していることに対し、「自立」で良いのか「一部介助」に丸を付けるべきか	「自立」で良い。その上で備考欄に利用している「道具」を記入いただければ良い。
17	★	現在	「現在」の尺度がケアマネによって違う前提で、これを情報共有のツールとして活用できると考えて良いか。	実証を踏まえると大きな支障はない。
18		現在	家族は遠方だが施設に入居しているので介護力に不安が無い場合は「支障なし」で良いか	その通り、「支障なし」で良い。
19	★	現在	独居の方の場合に、それはそれで「自立」なのだが、専門職としては「見守り」「一部介助」くらいだと思う。その時に「現在」欄をどうすれば	援助の展開を書いた方が良いのであれば、「見守り」を「自立だけと難」「リスク大」くらいに捉えて頂いて、○をつけて頂ければ良い。
20		現在	現在欄の取り扱いをどう捉え方という事で良いか。	最後は記入者の主観でお願いしたい。
21		項目	縦の項目のうち、コミュニケーションなどは「阻害要因」にも入ってしまうように感じる	そのむずかしさはその通り。縦の項目は課題分析標準項目に合わせているのでどうしてもそのようなことが起こりうる。気持ち悪さも残るかもしれないが、そのまま活用いただきたい。
22	★	項目	施設で利用する場合において、「居住環境」をどう捉えれば良いか	在宅復帰が見えているなら在宅の環境を前提に、そうでないなら施設の環境を前提に判断する。
23	★	ニーズ	ニーズ欄の書き方が分からない	まずは「問題点的な書き方」をしていただき、その上で、その方の意向やストレングスを踏まえて「～したい」という表現の案に書き換えるという使い方をしていただくと書きやすいと思われる。
24	★	見通し	アプローチやケアが無い阻害要因をどう取り扱うべきか	まずは要因として書き残しつつ、その要因に対するアプローチやケアこそ、多職種あるいは同職種の職域で知恵を共有し助け合うような仕組み（例：研修会、指導会）が有効。
25		見通し	見通し欄について、専門職の視点と利用者家族の視点のバランスをどうとるべきか	この様式は原則として専門職たるケアマネジャーの意見を書くものと捉えて頂きたい。利用者家族の視点は情報収集の過程で前提として把握されているという認識である。
26		見通し	一つひとつの要因にたいして全て見通しを書いていくという理解でよい	その通りだ。
27		見通し	一つ一つの生活行為について、「見通し」欄を書くのか。そうすると同じことを何度も書くことになるが。	「見通し」欄は「要因」ごとに書く。縦に空欄があるところから右側は、横に目をやらないで見て頂きたい。「要因」を6つ書いたら、「見通し」も6つ書くということだ。
28		見通し	アプローチする方法が見当たらない要因については「見通し」欄をどう書けば良いか	空欄で良い。ただし、本当に妥当なアプローチやケアが無いのかどうかは、同職種間あるいは専門職を交えて検討する余地がある。
29	★	要因	(家事など)家族がやっているという場合へのアプローチの必要性を感じない	家族がずっとケアを提供できるなら良いが、家族自身の体調や心理的負担などが継続が困難とみられる場合はアプローチが必要だろう。
30	★	要因	阻害要因をどの程度まとめて書いたら良いか	6項目に収まるように整理していただきたい。阻害要因が多岐にわたる方ならやや抽象的なまとめ方になるだろうし、限定的なら具体的なことを書けば良い。ちなみに、この6項目というのは情報を受け取る側の視点に立って絞り込んでいる数である。
31		要因	阻害要因の欄が6個では足りない	まずは7個以上になっても良いので書き出して頂きたい。その上で、多職種等に説明しやすくする観点から、6つにまとめることを考えて頂きたい。
32		要因	「阻害要因」をどこまで細かく書くべきか	全体で6項目になるように整理していただきたい。この様式を使って説明を受ける側からするとその程度の項目数にしなくて頭に入らない。当然、その背景にはより詳細なアセスメントがあって良い。
33		要因	要因欄の書き出しが難しい	①まずは書き出す、②ツールを変える、③主任等に相談する。
34		要因	なぜ、家族がやっていることを要因として挙げなければいけないのか	家族がずっとケアを提供できれば問題ないが、家族側にも病気等のリスクがあって継続的にケアを提供することが困難な場合には、そのことも要因として捉えて手を打つ必要があるため。
35	★	要因	阻害要因の表現、書き方が分からない。端的な表現が良いのか、文章表現が良いのか	多職種等とのコミュニケーションに活用するという観点に立てば、箇条書き的な書き方の方が分かりやすいが、どうしても文章になってしまうのであればそれでも良い。
36		要因	要因欄について、認知症の場合に「認知症」と書かない方が良いとすると、認知関係の要因が数多くなってしまいうことで良いか。あるいは各項目の備考欄に「認知症で～」と書く方が良いか	多職種に分かりやすく伝えるという意味では要因欄を増やしてもらった方がよい。ただし、その方の要因が認知症関係以外にも数多い場合は、要因が数多くなってしまふ却って伝わりにくくなるので、備考欄で書いていただきたい。
37		要因	要因が6つを超える時にどうまとめ方をすれば良いか	考え方は2つ。1つは個別の要因をまとめた書き方とすること。もう1つは要因の中で優先順位を判断して、重要な要因を残すこと。
38		要因	要因欄の①～⑥は優先順位順か、ランダムか	ランダムである。
39		利用者及び家族の意向	利用者及び家族の意向の欄が小さい	大きめに改変して下さってOKです。
40		利用者家族の意向	利用者の「想い」を反映する必要があるのではないか	情報の収集過程で把握している前提である。
41		要因	単身であることを要因として挙げて良いのか	単身であること以外に要因が展開できるならそれを挙げていただく。それでもなお、単身であることが課題ならば。
42		可能性	「改善」の考え方をどう考えたら良いか	
43		要因	介護者と本人との関係性が悪い場合に要因として挙げて良いのか	
44			GH等入所者の家事をどう解釈すれば良いか	
45			認知症の人の「改善」をどう捉えればよいのか	
46			見通し欄について、要因別に書く重複が出ると思うが、なぜ要因別に書く方が良いのか	要因別に分けておくと、その後ケアチームで分担してケアを実践することがやりやすくなるため。まとめても良い。